

初夢

初夢とは、新年に初めて見る夢であり、元日の夜に見る夢、または正月二日に見る夢のことをいいます。初夢には一年の吉凶を占う風習があり、良い夢を見るには七福神の乗った宝船の絵に、

永き夜のとおの眠りのみな目覚め 浪のり船の 音のよきかな

という回文（上から読んでも下から読んでも同音の文）を書いたものを枕の下に入れて眠ると良いとされています。これでも悪い夢を見た時は、翌朝、宝船の絵を川に流して縁起直しをするともいわれます。

初夢に見ると縁起が良いものを表すことわざに「一富士（ふじ）、二鷹（たか）、三茄子（なすび）」というものがあります。この三つの組み合わせは、江戸時代初期にはすでにありましたが、その起源については諸説あります。まず第一に、駿河国（今の静岡県中央部）で高いものの順である説。これは、富士山、愛鷹山（静岡県沼津市にある標高一八八メートルの山）、初物のなすの値段のことをいいます。なすは江戸時代に温室栽培されるようになったのですが、夏が旬のなすを冬につくるのは、相当な手間と労力を要しました。初物のなすは当然値段が高く、庶民にとって初物のなすを食べることは夢のまた夢だったようです。第二に、時の將軍徳川家康が富士山、鷹狩り、初物のなすを好んだことからという説。第三に、富士は日本一の山、鷹は賢くて強い鳥、なすは事を「成す」という説。第四に、富士は「無事」、鷹は「高い」、なすは事を「成す」という掛け言葉である説などがあります。

また、「四扇、五煙草、六座頭」と続くこともあります。この三つが最初の三つと同時に言われたのか、後から誰かがくつつけたのかはわかっておりません。しかし扇は末広がり、煙草は煙が立ち昇る、座頭（琵琶法師や按摩などをして生計を立てた剃髪の盲人）は毛が無い（怪我無い）と何れも縁起の良いものです。

岩屋神社では新年のお参りの際に、先着五百名の参拝者に「福夢札」をお渡ししております。「回文」と「七福神」の記された「福夢札」を枕の下に入れ、良き夢をみられてください。

【参考資料】

神道事典 國學院大學日本文化研究所

広辞苑 岩波書店